

〔様式1〕

協働による社会課題解決の取組の内容

取組の名称	病気の子どもたちが安心できる居場所づくり
28年度募集テーマ	<input checked="" type="checkbox"/> 『笑顔』 <input checked="" type="checkbox"/> 『場づくり』 ※該当テーマに <input checked="" type="checkbox"/> してください。
テーマとの関連	<p>◎テーマをどのように受け止め、貴団体の取組と合致すると考えたのかをお書きください。</p> <p>岡山大学病院の小児病棟や外来では、子どもたちが注射や点滴、抗がん剤や移植治療、リハビリなど、辛く苦しい日々を病気によっては1年半～2年間経験することもあります。また、小児がんの再発や慢性疾患など、長期的な治療を必要とする子どもたちも多くいます。岡山県内で病気やケガを理由に学校を長期欠席している児童・生徒は小学生～高校生まで含めると1,000人以上いることが、学校基本調査の結果から明らかになっています。病気の子どもたちが少しでも笑顔になれる環境づくりや、病気の辛さ、痛さを少しの時間でも忘れて勉強や知育ボードゲームで遊べる場づくりを岡山大学病院小児科の医師、看護師、病棟保育士、院内学級（鹿田小学校、桑田中学校の特別支援学級教師）、岡山市保健所健康づくり課、約30名の医療・看護・福祉を学ぶ近隣大学の大学生ボランティアと取り組んでいます。</p> <p>入院治療が終わり、退院後も1年近く通っていない原籍校の通常学級に通学するまでには自宅療養が必要となり、友達とのコミュニケーションや体力的な不安を抱える子どもたちが多く、私たちポケットサポートでは入院中から復学までの継続的なワンストップ支援を行っています。誕生日カードを送ることや、スタッフ、ボランティアはガイドライン研修やケーススタディを重ね、利用者にとって特別な存在であり続けるための努力をしています。これらの活動は【病気の子どもたちの明るい将来、笑顔を支えたい】という想いが込められており、今回のテーマとの関連性が強いと考えています。</p>
目的・解決をはかりたい課題の状況・目標	<p>◎取組の目的、解決をはかりたい社会課題の状況把握・ニーズ把握、解決後の姿（目標としている状況）などについて記載してください。</p> <p>病気の子どもたちが教育を受ける場所として病院内の「院内学級」があります。岡山県内には7施設12学級がありますが、岡山市内に関しては中学校の院内学級が2施設にしかなく、他の病院に長期入院した中学生は院内学級に通うことができない現状があります。また、院内学級に通うためには(1)現在の学校から転校する必要があること、(2)20日以上長期入院になること、といった要件があり、すべての子どもたちが通える環境ではありません。さらに、治療が最優先になるため検査や、点滴、移植前のクリーン室など、院内学級に通えず、ベッドサイドでの学習に限定され、学習できないケースも出てきます。高校生に関しては義務教育ではないため、院内学級自体が整備されておらず、学習継続が困難で休学や独自での学習が現状です。</p> <p>引きこもりや不登校などの子どもにおける支援策と同じように、病気の子どもたち【病弱児】における教育制度改善も全国各地で訴えられています。私たちポケットサポートは、このような社会課題を多くの方へ周知・啓発するための講演会や研修会の開催、関係機関（行政、病院、学校、保護者など）との連携・協働、岡山大学病院以外の岡山市内の病院への学習・復学支援を行うための人材育成・資金確保などを継続的に実施していきます。</p> <p>日々、辛い治療と勇敢に闘い、たくさん我慢して頑張っている病気の子どもたちが一人でも多く笑顔になってくれるように、安心して勉強や遊べる環境を作ることを目標としています。私たちの取り組みへの理解者・支援者を増やし、幅広い世代を対象とした院内学級の質・量を拡充することを通じて岡山市の医療・福祉の充実に寄与したいと考えています。</p>

取組の内容

- 1 取組の対象：対象地域、対象者、対象人数等
 - ・岡山大学病院小児科に入院している病気の子どもたち（主に就学前～高校生）
 - ・岡山大学病院小児科に外来通院する病気の子どもたち（主に就学前～大学生）
 - ・岡山大学病院の院内学級（鹿田小学校、桑田中学校）に通学する病気の子どもたち
 - ・岡山市内と近隣市町村（倉敷市・総社市・井原市・吉備中央町）で自宅療養している病気の子どもたち
 - ・病気の子どもたちの家族

 - ・延べ対象人数：約 500 人

- 2 取組の担い手：取組への参加団体、参加人数等

【取り組みの担い手】

 - ・NPO 法人ポケットサポート スタッフ・大学生ボランティア 約 40 名
 - ・岡山大学病院 医療従事者、保育士、院内学級教員 約 20 名
 - ・岡山市保健所健康づくり課（担当者 2 名）

岡山市市民協働推進モデル事業および小児慢性特定疾病児童等自立支援事業連携

【参加・協力】

 - ・大学生ボランティア参加大学（岡山大学、岡山県立大学、就実大学、ノートルダム清心女子大学、川崎医療福祉大学 等）
 - ・NPO 法人杜の家：発達障害・学習障害など特性のある子どもたちに関する支援情報交換

- 3 活動内容、実施方法などを具体的な活動ごとに箇条書きでお書きください。
 - ・**プレイスペース「小児入院病棟での学習支援」**
毎週月曜日（10～12 時）火曜日（16～18 時）に院内学級、ベッドサイド、病棟ランチルームで学習支援や知育ボードゲームでの交流活動。病気の子どもたちと関わるための研修を受けた医療・看護・福祉を学ぶ大学生ボランティアが子どもたちと交流。

 - ・**ポケットスペース「小児科外来通院時や自宅療養児のための学習支援」**
（平成 28 年度 岡山市市民協働推進モデル事業採択）
毎週水曜日（11～16 時）木曜日（13～16 時）に岡山大学病院内施設「マスカットキューブ」の施設を利用して、診察や検査の待ち時間に宿題や知育ボードゲームができる場所。院内学級に通っていた友達や保護者同士でも交流の場にもなっている。

 - ・**院内学級を有しない岡山市内の総合病院に入院中の子ども学習環境調査**
（平成 28 年度 岡山市市民協働推進モデル事業採択）
院内学級が設置されていない岡山市内の総合病院にてアンケート調査を実施。実施期間は平成 28 年 12 月から平成 29 年 2 月頃までを予定。（分析・活用は次年度に至る可能性もある）子どもと保護者を対象として別々のアンケートを作成して、入院中の状況や感情を把握。岡山市の助言を得てアンケート項目の作成や調査方法（個人情報の取り扱い含む）を決定。調査結果から子どもと保護者の実態を明らかにするとともに当病院での院内学級設置の可能性を探る。調査結果を岡山大学と共有して今後の医療環境の改善に役立てていただく予定。

 - ・**年 4 回の交流イベント開催（知育ボードゲーム大会、夏祭り、遠足、クリスマス会）**
一緒に入院していた友達同士など当事者や当事者家族が交流できるイベントを開催。病弱児が環境により体験できない、夏祭りを室内で実施や、バリアフリーの遠足企画、クリスマスケーキの調理実習などの集団活動や体験活動を実施。

・病気の子どもたちの環境理解のための講習会や講演会

難病を抱える子どもとその家族の実態や支援者の活動を広く発信して、理解者・支援者を拡充するための講演会を開催。

▼平成 28 年度実績

「涙も笑いも、力になる～院内学級の子どもたちが教えてくれたこと～」

開催日時：2016 年 7 月 10 日（日）10：00～12：00

場 所：岡山大学鹿田キャンパス保健学科棟 301 講義室

講 師：副島賢和先生（昭和大学大学院保健医療学研究科准教授、学校心理士）

参加者：120 名

教育関係者や教員志望の学生が多く参加。非常に高いアンケート評価を得られた。

・テレビ電話を活用した双方向WEB学習支援（ベネッセ子ども基金助成事業）

クリーン室で移植治療中の子どもや、インフルエンザなどの感染症拡大のため通常学級に通学できない子どもたち、自宅療養中の子どもたちとインターネットのテレビ電話を使い、大学生ボランティアや院内学級と学習、会話ができるように支援。クリスマス会に参加できないクリーン治療中の小学 6 年生男子には、病棟ランチルームをテレビ映像中継し、クリーン病室に iPad で配信を計画中。

・年 5 回程度の学生ボランティア研修会、フィードバックシート配布

大学生ボランティアの病気の子どもたちとの関わり方、声掛け、病弱児教育についての理解、活動中の問題点・悩みなどを意見交換するための研修会を開催。また、日々の活動日報への助言やアドバイスをフィードバックシートとして個別に配布して、今後の活動に活かしてもらう体制を整えている。

・年 5 回程度の新規学生ボランティア説明会（ガイドライン研修）

岡山市内の院内学級が設置されていない総合病院等にも大学生ボランティアを学習支援として派遣できるように、一人でも多くの子どもたちの笑顔を見られるように新規学生ボランティア向けの説明会を開催して人員確保、人材育成を実施。2 時間の説明会の中では、団体説明などの他にポケットサポート独自の「スペース・サービス・ガイドライン」の説明、病気の子どもたちへの声掛けや、対応方法のグループワークも取り入れ、より実践的な研修を行っている。

4 取組をWEB等で告知している場合はそのURLをお書きください。

公式ホームページ：<http://pokesapo.wixsite.com/pokesapo>

Facebook：<https://www.facebook.com/road.to.pocketsupport>

つながる協働ひろば（動画）：<http://www.okayama-tbox.jp/kyoudou/pages/movie>

<p>協働の体制</p>	<p>◎協働する各団体の役割分担や、団体間の目的の共有の仕方、対等な協働関係を築いていくための工夫など、具体的に記載してください。</p> <p>【NPO法人ポケットサポートの役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去4年間、病気の子どもの支援を提供してきたノウハウを生かして、岡山大学病院において学習と交流の場を運営。 ・病弱児経験のあるスタッフ、医療資格のあるスタッフがそれぞれの経験と知識を活かして利用者が安心できる環境を整備。 ・これまでに蓄積してきた学校・医療機関とのネットワークを活用して大学生などへ情報を発信しボランティアを募集。 <p>【岡山大学病院の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学病院内施設「マスカットキューブ」の無償利用。 ・外来通院者への「ポケットスペース」チラシ配布・案内。 ・小児入院病棟ランチルーム、ベッドサイド、院内学級での活動許可。 ・テレビ電話を活用した双方向WEB学習支援におけるネットワーク利用許可。 ・医療従事者、病棟保育士、院内学級教員との連携。 <p>【岡山市（保健所健康づくり課）の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」の実施を通じた安定的・継続的なサービス提供に向けての情報収集・助言。 ・利用者の安全や安心に配慮した運営のための情報収集・助言。 ・市教育委員会や岡山県など、関係公的機関との連絡調整。 ・取り組みや団体の周知拡大のための不特定多数を対象とした情報発信。 <p>【情報共有の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人ポケットサポート、岡山市、ESD・市民協働推進センターを構成員としたメーリングリストを運用して日常的な連絡調整をはじめ、会議記録やアンケート集計結果を共有。 ・平成28年4月以降、ほぼ毎月のペースで会議を設けており、各取り組みの目的の再確認や結果の検証を実施。 <p>【対等な協働関係を築いていくための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの企画段階からお互いの強み、弱みを理解し合っており、そのうえで役割分担を設定。 ・建て前ではなく本音で協議を行い、一次的に想定より悪い状況が生じた場合も相手に責任を負わせるのではなく、お互いに補い合う方法を検討するように両者が心がけている。
<p>取組の工夫</p> <p>取組の特徴</p>	<p>◎地域資源や人的資源の活用など工夫した点を記載してください。</p> <p>【地域資源】</p> <p>平成28年4月に岡山市とともに岡山大学病院長へ本取り組みへの協力依頼を行いました。岡山大学病院には快く協力を承諾していただき、平成28年度事業では「地域医療人育成センターおかやま（マスカットキューブ）」の一室を無料で使用できることになりました。</p> <p>【人的資源】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人ポケットサポートのスタッフには病弱児経験者が4名在籍しているため、自らの体験をもとに子どもや親に寄り添った対応・判断ができます。 ・過去の活動実績をもとに大学生ボランティア用の【スペース・サービス・ガイドライン】を策定しています。これにより活動の水準・安全性を一定以上に維持できるほか、はじめて参加するボランティアスタッフでも安心して活動に従事できるため、多くの大学生ボランティアを受け入れることが可能となっています。また、定期的なフォローアップ研修も実施しており、質の向上を行っています。

	<p>◎取組の特徴やアピールポイントを記載してください。</p> <p>・第47回社会貢献者表彰（主催：公益財団法人社会貢献支援財団）を受賞しました。本賞は広く社会の各分野において社会と人々の安寧と幸福のために尽くし、顕著な功績を挙げながら報われる機会の少なかった方々が対象となっています。 https://www.fesco.or.jp/award/index.php https://www.fesco.or.jp/doc/winner_47_list.pdf</p> <p>・社会ボランティア賞（主催：公益財団法人ソロプチミスト日本財団）を受賞しました。本賞は、主催財団定款の事業に掲げる各分野に該当する活動を対象に、地域社会のニーズに適合した地域密着型のボランティア活動を継続的に行い、誠実に責任を果たしている人を称えるものとのことです。 http://pokesapo.wixsite.com/pokesapo/single-post/2016/11/08/%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E3%83%9C%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%A2%E8%B3%9E%E5%8F%97%E8%B3%9E</p> <p>・上記の表彰や法人代表（三好）への講演依頼の増加などによって取り組みの意義や成果が社会的・全国的に認められつつあることを感じ、大変励みになっています。一方で私たちを取り巻く環境に大きな変化は見えておらず、目の前にいる子どもや家族の現状を改善するためには岡山市及び岡山県内でさらに多くの人たちに共感していただく必要があると実感しています。入院や治療にかかる費用を捻出しなければならない当事者家族のみに負担を求めることはできないため、「岡山市協働のまちづくり賞」の受賞を通じて課題の現状や私たちの取り組みを広く発信して、地域全体で難病のある児童と家族を支えることのできる基盤づくりにつなげていきたいと考えています。</p>
<p>成果・効果</p>	<p>◎取組を通じて得られた成果や、解決した社会課題の状況、また関連した地域への効果や変化などを記載してください。</p> <p>ポケットサポートのスタッフや大学生ボランティアが病室に迎えに行くと、子どもたちは笑顔で迎えてくれます。「ランチルームで遊ぶ？」と聞くと「行くー」と、とても楽しみにしてくれくれます。病気の子もたちに元気を与えるためにボランティア参加しているスタッフが多いですが、逆に子どもたちからたくさんの元気やパワーをもらっていると語ってくれるスタッフも多いです。</p> <p>「宿題しているときは病気のこと考えなくていいから楽なんだ」小学生の女の子が言ってくれた言葉です。痛くて辛い治療のことを、大学生ボランティアと一緒に勉強しているときは忘れることができるからこそ、私たちポケットサポートのスタッフと大学生ボランティアの存在意義は大きいと考えています。</p> <p>「夏祭りのときの写真、本当にいい顔していました。うらじゃのときの笑顔も、（手術前に）普通に歩いていた頃にしてた顔と同じような顔をしていました。見ていて涙が出そうになるのをこらえていました。本当にありがとうございます。できることをやらせていただいて、やりがいもってできていて、本当にうれしかったです。またこんな機会をお願いします」高校3年生の男の子のお母さんから頂いたメッセージです。男の子が本当に楽しんでいる素晴らしい笑顔は今でも鮮明に思い出されます。交流イベントは普段なかなか体験できない夏祭り、調理実習、工作などバリアフリーで体験してもらうことで、もっともっと素晴らしい笑顔を見せてくれると信じています。</p> <p>中学校の入学式から4日後に小児がんを発病した中学1年生の男の子。ポケットサポートは入院中から復学まで継続的なワンストップ支援を続けてきました。退院後もすぐには学校に行けず、午前中だけお母さんの車で送迎で通いますが、友達との会話は1年以上も空白期間があるためコミュニケーションの不安があったはずですが。私たちはテレビ電話を活用した学習支援、誕生日カードや中間テ</p>

	<p>スト応援メッセージ、外来通院時の学習支援などで、寄り添い続けました。現在では、自転車で通学し、野球部への復帰に向けて体力づくりを始めています。</p> <p>この男の子のように、入院中だけではなく退院後の復学に悩んでいたり不安を感じていたりする子どもたちは全国各地にたくさんいます。ポケットサポートは岡山大学病院を最初の拠点として、一人でも多くの子どもたちが将来に希望を持って復学ができるように、入院中から復学まで継続的な支援を続けていきます。</p>
<p>今後の活動展開 など展望</p>	<p>◎成果の普及や今後の活動展開など展望について記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援の検証と改善を重ね、ノウハウを蓄積していき、病院や他のNPO法人などの新たな院内学級設置を促進・支援していきます。また、ICTなどを活用しながら自宅療養中の子どもたちへの学習支援や交流機会を拡充していきます。 ・「学習環境調査」の結果をもとに岡山市及び岡山県内での院内学級の設置数増加と環境改善を関係各所に提案していきます。 ・岡山市（保健所健康づくり課）とともに厚生労働省「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」の実施の可否を検討しながら、岡山市における難病のある子どもたちへの安定的・包括的なサービスの実現を目指します。 ・利用者の復学を支援すると同時に、自宅療養中の学習支援や高校生における学習の単位（出席）認定について情報収集と検討を重ね、必要に応じて関係各所への提言へつなげていきます。 ・活動への理解者・支援者を増やすとともに内部の人材育成体制を整備してNPO法人の組織基盤強化と自立的な運営につなげていきます。

病気の子どもたちの 明るい将来・笑顔を支えたい！



大きな社会課題に立ち向かう

ポケットサポートは病気の子どもの学習や復学・自立を支援する団体です。病気といっても、風邪やインフルエンザなどのようなものではなく、小児がん、心臓病、などの慢性的な疾患、長期にわたる治療や入院が必要な子供たちの支援です。それらには、まだまだ解決されていない社会課題は多くあります。

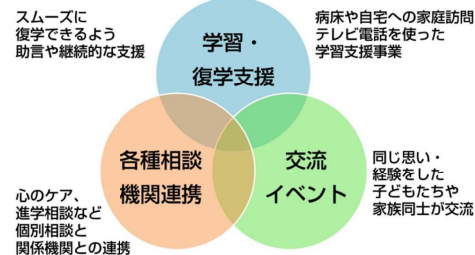
我々は、この大きな社会課題にスタッフ一丸となって取り組む所存です。

NPO 法人ポケットサポート
代表理事 三好 祐也

3本柱で子どもたちを支える

ポケットサポートは「病気の子どもたちが、将来に希望を持って生活できる」ということを実現するために、右図の3つの柱で活動しています。医療や教育、行政関係者の皆様のご協力も必要不可欠です。様々な形で支援に携わってくれるサポーターを募集中！

- ◇ 入院中から復学まで切れ目のない継続支援
- ◇ 当事者や家族への交流および学びの場の提供
- ◇ 学習だけに留まらない支援、啓発、講演会



寄付で支援する

活動に賛同して賛助会員になって下さる方、ご寄付を頂ける方を募集しております。ポケットサポートの事業は、皆様の会費、ご寄付により進められています。

- ① 賛助会員として定期的に寄付をする
個人 3,000 円～/年、団体 10,000 円～/年
ホームページより「入会申込書」を記入して、メール送信または郵送ください。
- ② 寄付金を集めて、その都度寄付をする
この用紙の最下部にある振込先へご入金後、メールまたは電話にてお知らせください。

一緒に活動する

大学生ボランティアによる学習支援をはじめ、多くの方が日々の学習支援や、交流イベントスタッフ、事務作業員として活動に参加して頂いています。

- ① 新規ボランティア説明会に参加(学生限定)
定期的に説明会を開催しており、研修後に学生ボランティアとして活動に参加して頂きます。
- ② 保育士、教員免許をお持ちの方
担当者との面談で活動内容などを調整して、学習支援などの活動に参加して頂きます。
- ③ その他
イベント当日スタッフとして参加して頂きます。

※掲載している支援方法は平成 28 年 11 月現在の団体方針に基づくものです。今後の改定により変更する場合もございますので、予めご了承下さい。

賛助会費・寄付金の振込先金融機関として「ゆうちょ銀行」と「中国銀行」を開設しております。

ゆうちょ銀行 口座番号：01340-3-104683
名義：特定非営利活動法人ポケットサポート

中国銀行 宇野支店 普通口座 1706304
名義：特定非営利活動法人
ポケットサポート 理事 三好祐也



長期休暇中の宿題会



知育ゲーム大会



夏祭り



外来通院時に利用できる
ポケットスペース



遠足



音楽学習会



院内学級とクリーン病室を
テレビ電話で中継した学習発表会



クリスマス会



調理実習

入院病棟での学習支援
プレイスペース

外来通院時の学習支援
ポケットスペース

ピアカウンセリングや
個別学習支援は随時実施

入院中

退院前

自宅療養

復学

院内学級での
学習支援補助

テレビ電話を使った
双方向 WEB 学習支援

様々な体験学習や友達と
再会できる交流イベント

NPO 法人ポケットサポートの活動は、支援者の方々のご寄付や、ボランティアにより成り立っています。皆様のサポートにより、病気の子どもたちに学習・復学支援や、交流イベント、ボランティアスタッフ研修を提供できるようになります。

子どもたちの未来のため、笑顔のために、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人ポケットサポート
http://pokesapo.wixsite.com/pokesapo/

住 所：〒700-0932 岡山市北区奥田本町 22-2
メー ル：info@pokesapo.com
電 話：090-7590-0571 (担当：山口)

病気の子どもたちの学習支援・復学支援活動を行う

ポケットサポートが **お伝えしたい5つのこと**

- ① 病気やけがにより長期間、学校へ行けない子どもは全国で約 50,000 人いると言われており、支援が必要とされていること。
- ② 長期入院はもとより、入院の短期化・頻回化から通院治療中で自宅療養をする子どもたちへの復学支援が重要視されていること。
- ③ 病気療養中の高校生年代への支援は、ほぼ手付かずの状況であり、生徒への教育支援の充実が叫ばれていること。
- ④ 医療の進歩によって救命率が上がり、子どもたちは「大人になり、より良い社会生活が送れるかどうか」が課題とされていること。
- ⑤ 教育は成長・発達に重要で、心理的安定・意欲の向上から、治療効果を高めることや健康状態の回復改善に有効であること。

● 病気の子どもたちが教育を受けることができる制度「院内学級」

入院中の子どもたちが通う **院内学級**

全国には病院内や併設で **271 学級**

設置率は **病院全体の約 37%**

(全国病弱虚弱教育研究連盟 2015 年度施設調査)

義務教育ではない高等学校段階の支援はなく、退院後の在宅療養児の学習支援など包括的な制度がない。

岡山県内の院内学級設置病院

< 県内には 7 施設 12 学級 >

- ・ 岡山大学病院
- ・ 岡山県精神科医療センター
- ・ 岡山赤十字病院 (小学校のみ)
- ・ 岡山済生会病院 (小学校のみ)
- ・ 倉敷中央病院
- ・ 川崎医療福祉大学病院
- ・ 津山中央病院



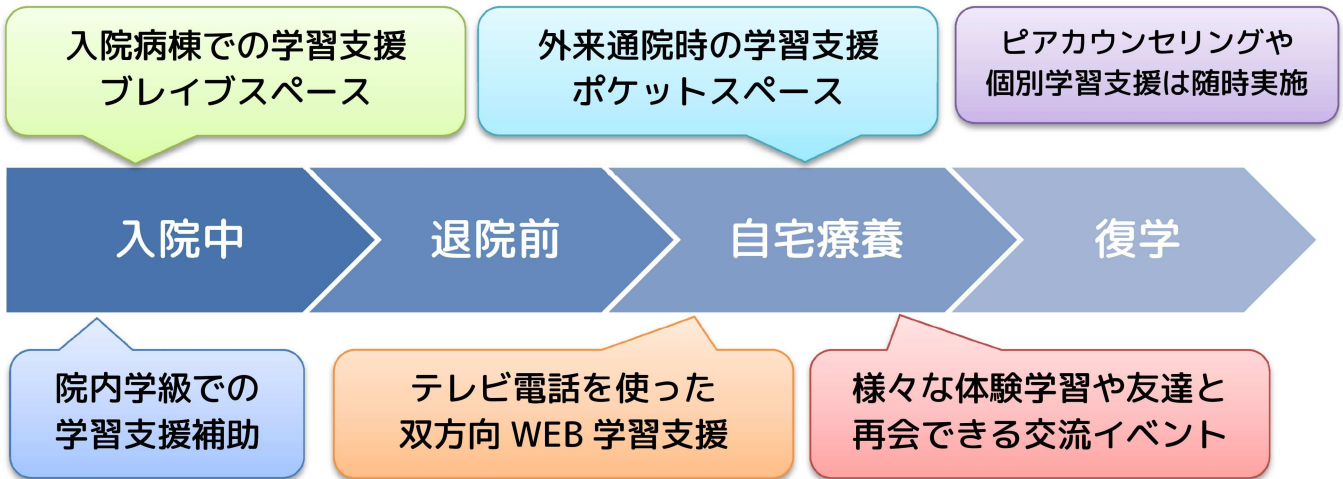
岡山県内で病気やケガを理由に
長期欠席している子どもたち

小学生 **534人** 中学生 **454人**
高校生も含めると **約 1,000人以上**

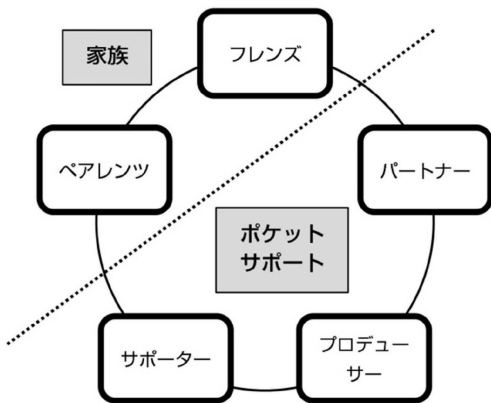
(平成 25 年度 学校基本調査より)

病気の子どもたちが将来に希望を持って生活できる支援が必要です！

●ポケットサポートが行っている学習支援・復学支援・自立支援の活動



病気の子どもたちが安心して自分らしく過ごせる環境を提供しています!!

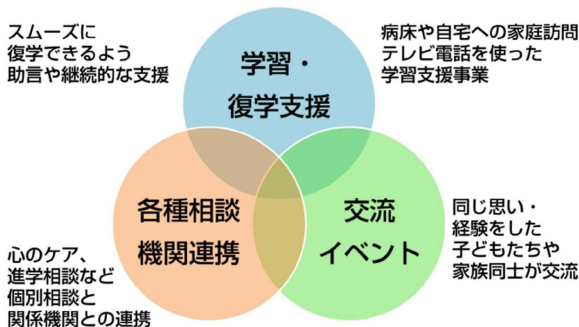


フレンズ……………病気を抱えた小中学生・高校生
 パートナー……………大学生ボランティアなど
 サポーター……………学習支援員、医療従事者など
 プロデューサー…コーディネーターなど

フレンズのことはペアレンツ（両親・家族）だけでなく、
 ポケットサポートのスタッフ（大学生ボランティア、学習支援員、
 医療従事者など）が連携しながらチーム全体として支援します。



●病気の子どもたちの明るい将来・笑顔の未来を支えるためにできること



ポケットサポートは「病気の子どもたちが将来に希望を持って生活できる」ということを実現するために、左図の3つの柱で活動しています。医療や教育関係者の皆様のご協力も必要不可欠です。様々な形で支援に携わってくれるサポーターを募集中!

- ◇ 病弱児への理解ある環境づくり
- ◇ 闘病経験者たちへ学習だけに留まらない支援
- ◇ 関係者や家族への学びの場の提供

特定非営利活動法人ポケットサポート

<http://pokesapo.wixsite.com/pokesapo/>

■ 事務局 ■

住 所：〒700-0932 岡山市北区奥田本町 22-2

電 話：090-7590-0571 (担当：山口)

メール：info@pokesapo.com



ポケサポ夏祭りを開催しました

今年も涼しい室内で夏祭り体験交流イベントが開催されました。屋台や射的ゲーム、バルーンアート、そして本物の「うらじゃ」を間近で見ながらうらじゃ踊り体験！大興奮で笑顔いっぱいの日となりました。

参加者の声

★子どもから

「とても楽しかったです。思い出に残る一日になりました。」
「うらじゃのおどりが楽しかった！」

★保護者から

「涼しいところで楽しく遊べました」
「参加者の踊り楽しかった。みんなの笑顔が最高でした」

ポケサポ夏祭り2016実行委員 下川紘生

いままで当日のみの参加でした。今回初めて準備から参加させて頂き準備する側の大変さを知りました。でも楽しかったです♡当日は朝から準備をして、「今日は、長い1日になりそうだな」と思っていたけど終わって見ればあっという間でした。

ポップコーンですが正直言って大変でした。ポップコーンが出てくる口にポウルを近づけていたのですが口からけこう熱い空気が出ます。たこ焼きも種類がたくさんあったので選ぶだけでワクワクします。綿菓子もたくさんの味があり何よりも出来上がりが凄くキレイでした。うらじゃも凄く楽しかったです♪あんなに踊ったのは合唱団に行っていた時以来でした。次も頑張りたいです。またよろしくお願ひします。



副島賢和氏 講演会に参加して

今回の講演会では、私自身多くのことを学ばせていただきました。「感情を大切にしよう」「どんな感情も持っていいんだよ」という副島先生のメッセージは強く心に響きました。ユーモアを交えながら情熱的に講演される姿と、質疑応答で一人一人の心に寄り添いながらあたたかい言葉がけをされる姿に、改めて副島先生の偉大さを感じました。

また、実行委員として関わらせていただいて、テレビで見していた先生を少しだけ身近に感じられたことも光栄でした。今回の学びを今後の活動に活かしていきたいと思ひます。

(副島先生講演会 実行委員 立分恵)



イベントのご案内

10月23日(日)に秋の遠足「ものづくり体験」を企画中です。また、クリスマス会の日にちが決まりました。12月25日(日)です。どちらも詳細が決まり次第お知らせいたします。



ご寄付ありがとうございます

大恵電設様、藤原美容室様、藤原様、居安様、その他匿名ご希望の方、心より感謝申し上げます。また、ポケットサポートを応援して下さる賛助会員(個人3千円から、団体1万円から)も募集しております。

ポケットサポートでは活動を支援して下さる方からのご寄附をお願いしています。私たちの活動に皆様のお力をお寄せください。

●お振込み: 中国銀行宇野支店 普通 1706304
特定非営利活動法人 ポケットサポート 理事 三好祐也



秋の遠足へ行きました♪

10月23日に秋の遠足へ行ってきました。今回は備前長船刀剣博物館でペーパーナイフづくりチャレンジ！ボランティアや保護者の方々にもサポートしていただき、楽しい遠足となりました♪ また、今年度は子ども夢基金の助成により実施しました。

子どもたちの感想

- *とても満足した。
- *昼食も交流会もペーパーナイフ作りもおかし市場もぜんぶ良かった！
- *友だちと交流できてよかった。

保護者の方の感想

- *個人では行かないようなところだったので、貴重な体験ができました。
- *楽しい一日でした。



遠足イベントリーダーの感想

この度、責任者をさせていただきました橋本です。食事、交流会、ペーパーナイフ作り、駄菓子屋散策にて皆様に喜んでいただけました。子ども達はもちろん、大人も楽しめる内容で、晴天にも恵まれ、素敵な時間を過ごすことができました。

遠足イベントサブリーダーの感想

企画立案と刀剣博物館サポートを担いました米玉利です。ペーパーナイフ作り体験、実は僕自身が作ってみたいだったので企画しました。結果、子どもはもとより保護者やサポーターまでも夢中になって研磨。喜んでもらえて嬉しかったです。



インターンシップのご報告

9月1日から3日間、岡山ESD推進協議会(<http://www.okayama-tbox.jp/esd/pages/6122>)のご紹介でインターンシップの大学生がポケットサポートにやってきました。ポケットサポートは、なりたてホヤホヤのNPO法人ですので、団体の組織や成り立ちについては学べなかったかもしれません。でもやる気いっぱい素敵な笑顔でたくさんの体験をしていただいたので、病気の子どもの置かれている状況や支援の必要性はしっかり感じ取っていただけたようでした。これからのご活躍を応援しています。(事務局 山口)

ご寄付ありがとうございます

日豊工業(株)様、その他匿名ご希望の方、心より感謝申し上げます。

また、ポケットサポートを応援してくださる賛助会員(個人 3千円から、団体1万円から)も募集しております。ぜひご入会ください。ポケットサポートでは活動を支援して下さる方からのご寄付をお願いします。私たちの活動に皆様のお力をお寄せください。

お振込み: 中国銀行宇野支店 普通 1706304
特定非営利活動法人 ポケットサポート 理事 三好

ボランティア研修会を開催しました

学生ボランティアの皆さんを対象に、学生さんの都合に合わせて9月1日と6日の2日間に分けて、初めての研修会を開催しました。ポケットスペース(外来通院時の学習支援)やプレイスペース(入院中の学習支援)で活動を行う上で、大切にしたい心構えや子どもたちとのかわり方、活動報告のやり方などの研修を行いました。

今後の学生ボランティアスタッフ育成も視野に入れて、ポケットサポートの基準となる「スペース・サービス・ガイドライン」を策定して、「病気の子どもたちが将来への希望を持って生活できるように支援する」という基本理念を7つの行動指針でまとめました。

岡山大学をはじめ、就実大学、ノートルダム清心女子大学、岡山県立大学などの学生さんが多く関わり始めているポケットサポートを今後もよろしくお願いします。(奥田修平)

ボランティア研修会に参加した感想

参加してみて、院内学級に関する具体的な説明でイメージ作りができました。また、普段皆さんが実際にしているボードゲームを体験させていただいたりして、気を張る部分と楽しめる部分があり、充実した説明会だと感じました。(ノートルダム清心女子大学 松本さくら)

イベントのお知らせ

子ども夢基金の助成により今年もクリスマス会&音楽イベントを開催します。
日時: 12月25日(日) 場所: 岡山南ふれあいセンター

